

西濃教育事務所
「例えばこんな授業」シリーズ
中・国語編

学年・単元名	第2学年 表現を見つめる「走れメロス」
単元のねらい	メロスや王、セリヌンティウスの人物像や表現の効果に着目して作品の魅力を考えることを通して、それぞれの登場人物の心情の変化が表れていることに気づき、それについての自分の考えをまとめることができる。
本時のねらい 第4時／全6時	王の人物像が何をきっかけにどう変化したかについて、人物の言動や心情、また場面の展開と関わらせながらとらえ、王の言動の意味について読み深めることができる。

<p>1 前時に読み取ったメロス、王、セリヌンティウスの人物像を確認する。</p> <p>2 本時の課題を理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">刑場で王が「仲間に入れてくれまいか。」と言ったのはなぜだろうか。</div> <p>3 各グループで追究する。【グループ】</p> <p>S1: 王は、人を疑うのが当たり前だと思っていたのに、人を信じる大切さに気付いたのだと思う。それは、メロスが到着する直前まで友を信じて待ち続けていたセリヌンティウスを見ていたからだと思います。</p> <p>S2: 王はメロスが発する前に「遅れて来い。」と言っていたり、メロスが到着できないように、山賊を待ち伏せさせたりしていたから、到着するはずがないと思っていたけれど、メロスが困難を乗り越えて到着した姿を見て、人を信じてみたいという心情に変化したと思います。</p> <p>S3: 王は「人の心はあてにならない。」と言って人を疑うのは仕方がないことだと考えていたが、「信実とは空虚な妄想ではなかった。」と語り、人を信じたいという心情に変化し、考えを改めたのだと思います。</p> <p>4 『新編シラー詩抄』には描かれていなかった場面の展開と関わらせながら、王の変化について読み深め、代表グループが全体に向けて発表する。【グループ→全体】</p> <p>S4: 濁流の川に向かう「獅子奮迅」という表現で、友のために人間離れするほど無我夢中で闘ったメロスが描かれていて、メロスの信念を貫く様子を伝えようとしたのだと思います。それが、王の心を変えることを描こうとしていたのではないかな。</p> <p>S5: 「黒い風のように」という比喻表現から信念をもち、弱さを振り切るように迷いなく走り続けたメロスの強さが描かれていると思います。その困難を乗り越えた姿を描くことによって、王が「仲間に入れてくれまいか。」と言うほどまでに心を打たれていたことが分かります。</p> <p>S6: 「人質」とは違い、「赤」の情景描写が多いことから、メロスの勇気や信実を表し、その強い思いが王を変化させたことにもつながっているのではないかな。</p> <p>S7: メロスは何度も自分の弱さと闘い、それを乗り越えて、人を信じることへの信念をより強くした。そのメロスの姿が、王の心情を変えるきっかけになったのだな。</p> <p>5 本時の学習の振り返りをする。【個】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">代表グループの発表を聞いて、「人質」との場面の展開の違いから、赤の情景描写が増えている、メロスの信念が強まったことを表すだけでなく、王の心情の変化につながっていることが強く印象付けられるのだと気付くことができた。</div> <p>6 次時に、作品の魅力をまとめ、語り合うという学習の見直しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでとらえた人物像から、「言動や心情が大きく変化したのは誰か。」と問う。それが王であることを共有し、なぜ変化したのかを追究するという課題意識をもてるようにする。 ・グループで整理した登場人物の言動の関係や心情を根拠に話し合うことを確認する。 ・『人質』との違いに着目し、『人質』には描かれていない場面の展開と関わらせながら王の心情が変化したことを読み深めてみましょう。」と投げかける。 ・第3時で整理したことをもとに、交流で参考になった意見を書き込むよう助言し、根拠となる表現や場面の展開と結び付けて、読みを深めることができるようにする。 ・代表グループと自分たちのグループの交流での違いから気付いた学びを振り返るよう助言する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【思考・判断・表現(イ)】</p> <p>人を信じたいという王の心情の変化を、メロスやセリヌンティウスの言動や心情と関わらせたり、メロスが弱さと闘いながら信念を強くしていった場面の展開と関わらせたりして読み取っている。</p> <p style="text-align: right;">≪観察・ノート≫(指導に生かす評価)</p> </div>
--	--

本単元の主な学習活動	
第1時	・全文を通読し、話の展開や内容の大体をつかみ、学習の見直しをもつ。「人質」(『新編シラー詩抄』訳:小栗孝則/改造社 1937年)を並行読書に取り入れる。
第2時	・3人グループでメロス、王、セリヌンティウスと各自が担当する登場人物を決め、人物の設定の仕方や、言動とその意味について考えたことをタブレット端末のカードにまとめる。
第3時	・各自がまとめたカードを記号等でつなげながら、登場人物の関係について整理し、「人質」との違いを明らかにする。
第4時	
第5時	・作品の魅力をまとめ、語り合う。
第6時	・作品の魅力を書きまとめ、学習を振り返る。